

諏訪の景気動向

平成20年5月

(平成20年4月末 D・I調査)

平成20年5月16日
岡谷市郷田二丁目1番8号

諏訪信用金庫

経営相談室

諏訪地方の景気動向（平成 20 年 4 月末）

「平成 20 年 4 月末アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

諏訪地方 202 社のご協力を得て行った 4 月末の「景気動向調査（D I 調査）」では、回答全社の業況判断 D I は $\Delta 19.8$ と 3 期連続してマイナスとなった。

地域の景況は、製造業の受注動向や収益状況、商業、観光・サービス業などの個人消費動向からみて、踊り場の状態となっている。

製造業の「3ヶ月前」と比べた業況判断は「好転」9.3%、「悪化」31.3%で、業況判断 D I は $\Delta 22.0$ と前回調査時の $\Delta 23.0$ に続きマイナス基調が続いている。

受注状況は、「3ヶ月前」と比べ「不変」とする企業が 45.0%と一番多いものの、「減少」とする企業が 40.3%みられ、受注状況 D I は $\Delta 25.5$ となった。業種別では、輸送用機械の 41.2%、一般機械の 43.9%の企業で受注が「減少」しており、受注動向 D I は前回調査時に比べ輸送用機械は 35.3 ポイント悪化し $\Delta 35.3$ 、一般機械は 19.7 ポイント悪化し $\Delta 24.4$ となっている。規模別では、「100 人以上企業」の 3ヶ月後の受注予想は 32.1%の企業が「減少」とみており、同 D I は前回調査時の 7.1 から 17.8 ポイント悪化し $\Delta 10.7$ とマイナスに転じた。

ヒアリング調査では、サブプライムローン問題から生じたアメリカ経済の減速や為替市場の変動、もう一段の資源高への警戒感などから、大手企業の動向も含め先行きに不安感を持つ中小企業が多い。

商業は、ガソリン税の暫定税率失効によりガソリン価格は下がったものの、食料品価格の上昇などから消費者の節約意識が窺われ前年同期と比べた客単価 D I は $\Delta 40.0$ 、また 3ヶ月後の予想客単価 D I も $\Delta 26.7$ と低調になっている。食料品は、穀物価格の高騰による加工食品の値上げにより商品単価は上がっているが、購入点数が伸びないため売上高は平年並みのところが多く、また、卸売価格の上昇分を全て商品価格に転嫁できていないことや、チラシ等による特売品の売上げは良いが一般商品の動きが弱いことから収益性は低下している。ホームセンターでは、食の安全問題や野菜価格の上昇から、家庭菜園やプランター栽培用の野菜苗が例年以上の売れ行きとなっている。

また、諏訪地方の 4 月の車庫証明件数（軽自動車除く）は 1,083 台と前年比 92 台（+9.3%）の増加で、暫定税率の失効で自動車取得税が 4 月は一時的に 5%から 3%に引き下げられたことによる駆け込み需要がみられた。

観光・サービス業は、今年のゴールデンウィークは曜日配列の関係から 4 月中に連休がなく、5 月に入ってから 4 連休に旅行需要が集中した。

諏訪地方の観光施設・ホテル旅館も 5 月 3・4 日は入り込み客で賑わい、満館となるホテル旅館がみられたものの、ゴールデンウィークを通した売上高は前年を下回った模様である。

前年同期と比べた宿泊客数は 43.5%のホテル旅館で「悪化」としており、前年同期比の宿泊客数 D I は $\Delta 30.4$ となっている。また、夏の観光シーズンに向け例年 4 月の調査では高目となる 3ヶ月後の宿泊客数予想 D I が 0.0 となっており（2007.04 同 D I 65.0、2006.04 同 D I 22.2、2005.04 同

D I 63.2)、NHK大河ドラマ「風林火山」の好影響があった昨年に比べ先行きに慎重な見方となっている。

建設業は、3ヶ月前と比べた業況判断D Iは△21.4と前回調査時から横這いの状況である。また、調査企業の50%で前年同期と比べ外注発注量を減らしたとして、同D Iは△35.7となっている。3ヶ月後の予想では、業況・受注状況・外注発注量ともに「横這」とする企業が多いものの「悪化」とする企業も多く、調査項目全てのD Iで大きくマイナスとなっており厳しい見方となっている。

建築工事は、諏訪地方の平成20年3月の新設住宅着工件数は71戸で、前年同月の149戸から△78戸(△52.3%)減少した。また、平成19年4月～平成20年3月の累計着工戸数も1,521戸とマンション建設が相次いだ昨年の1,942戸に比べ△421戸(△21.6%)減少した。土木工事は、本調査時は公官庁の年度切り替え時期のため公共工事の発注は少なくなっている。また、今年度に発注となる公共工事は前年比では減少が予想される。

雇用状況は、3月の諏訪地方(諏訪職安・岡谷職安合算)の有効求人倍率は1.29倍と6ヶ月連続して前年比を下回るも、平成15年10月から54ヶ月連続して1倍台を維持しており安定している。

原油高の収益への影響

原油高騰が続いており、地域企業の収益性に大きな影響を与えている。

収益に対する影響は、回答全社では45.4%の企業が「前年同期比」で3%以上の影響を受けている。

観光・サービス業では、「前年同期比」で69.6%の企業が影響を受けており(5%以上影響のある企業34.8%、3%以上影響のある企業34.8%)、灯油等の値上がりによるコスト高が収益悪化の原因となっている。製造業では、燃料・材料費の値上がりなどから「前年同期比」42.1%の企業が収益に影響を受けている。(5%以上影響のある企業22.8%、3%以上影響のある企業19.3%)

原油高の収益影響

(企業数・%)

	3ヶ月前と比べて				前年同期と比べて				3ヶ月後の予想			
	回答企業	5%	3%	多少	回答企業	5%	3%	多少	回答企業	5%	3%	多少
全体	189	17.8	20.3	61.9	189	24	21.4	54.6	189	18.3	22.8	58.9
製造業	144	18.5	17.1	64.4	144	22.8	19.3	57.9	144	17.8	19.9	62.3
非製造業	45	15.7	29.4	54.9	45	27.5	27.5	45.1	45	19.6	31.4	49
商業(大型店)	12	14.3	21.4	64.3	12	14.3	28.6	57.1	12	14.3	35.7	50
建設業	12	14.3	14.3	71.4	12	28.6	14.3	57.1	12	14.3	7.1	78.6
観光・サービス	21	17.4	43.5	39.1	21	34.8	34.8	30.4	21	26.1	43.5	30.4

業況判断DIの推移 「3ヶ月前と比較して」

回答全社（202社）の「3ヶ月前比」の業況は、好転とする企業が11.4%、悪化とする企業が31.2%で業況判断DIは△19.8と3期連続してマイナスとなった。

製造業の業況判断DIは△22.0で前回調査時（△23.0）に続きマイナス基調が続いている。製造業主要5業種は金属製品を除いた4業種で業況が悪化した企業が増え、なかでも輸送用機械のマイナス幅が拡大している。

非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の業況判断DIは△13.5で、行楽シーズンを迎え観光・サービス業の同DIが大きく回復したことから非製造業全体では回復したが、商業は食品価格の上昇等による消費マインドの低迷、建設業は新設住宅着工件数の減少や公共事業の減少などにより事業環境は厳しいものとなっている。

産業別業況表

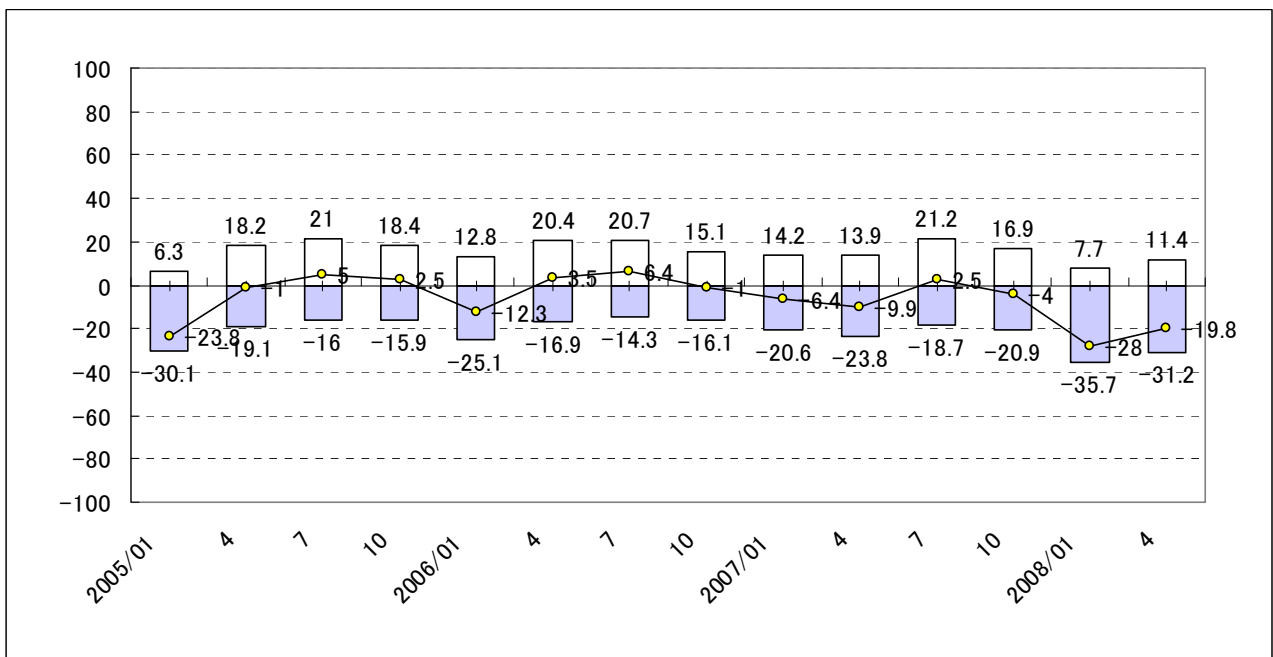
（企業数・%） 表-1

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全体	202	11.4	57.4	31.2	-19.8	200	17.5	44	38.5	-21	202	14.4	61.9	23.8	-9.4
製造業	150	9.3	59.3	31.3	-22	149	17.4	43.6	38.9	-21.5	150	13.3	63.3	23.3	-10
非製造業	52	17.3	51.9	30.8	-13.5	51	17.6	45.1	37.3	-19.6	52	17.3	57.7	25	-7.7
商業(大型店)	15	20	46.7	33.3	-13.3	14	28.6	35.7	35.7	-7.1	15	13.3	73.3	13.3	0
建設業	14	14.3	50	35.7	-21.4	14	7.1	57.1	35.7	-28.6	14	0	57.1	42.9	-42.9
観光・サービス	23	17.4	56.5	26.1	-8.7	23	17.4	43.5	39.1	-21.7	23	30.4	47.8	21.7	8.7

自社業況判断DIの推移

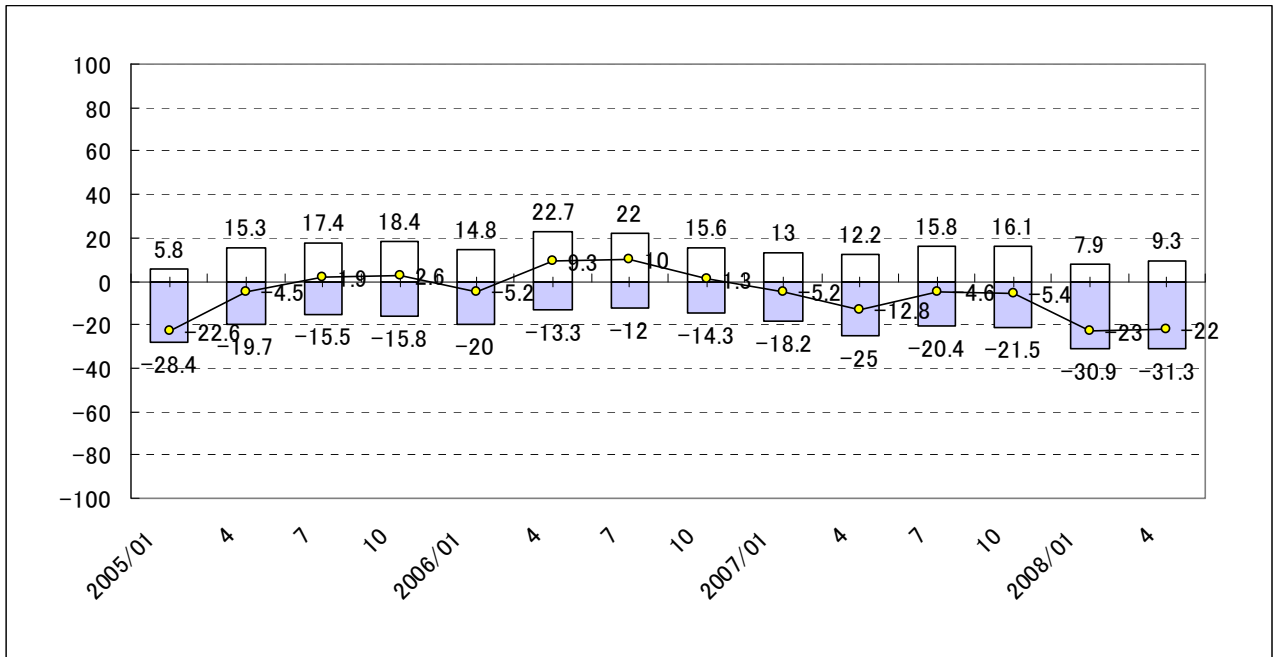
●回答全社：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-1



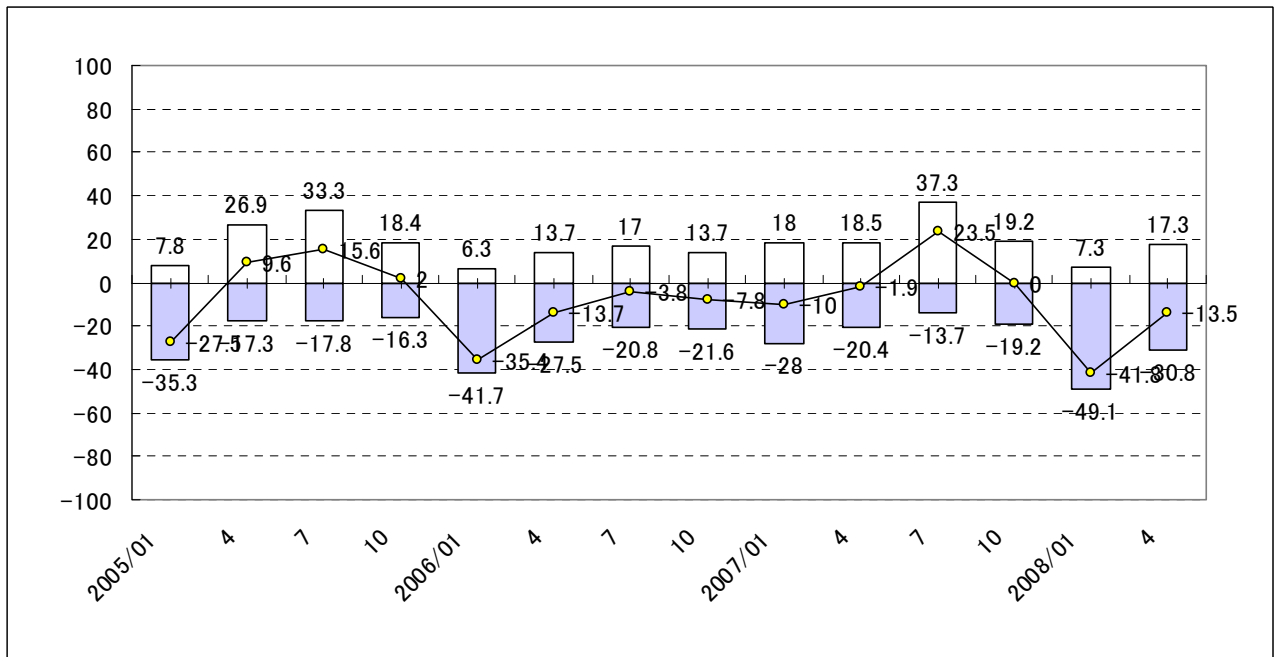
●製造業：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-2



●非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-3



産業別景気動向

1. 製造業

製造業の業況判断D Iは△22.0と前回調査時(△23.0)から横這いの状況となっており、全業種ともマイナスとなっている。また、企業規模による業況判断の差もみられず、いずれの規模でも業況は弱含みの横這いの状況となっている。

収益性D Iは△36.0で前回調査時(△35.5)の業況判断D Iと同様に横這いの状況となっている。受注の減少や原材料・燃料費などの高止まり、親企業からの発注単価引下げの影響がみられる。

受注状況の「3ヶ月後」の予想では、「不変」が53.3%と一番多いものの「減少」とみる企業が31.3%、「増加」とみる企業15.3%で、同D Iは△16.0と前回調査時の△11.3から4.7ポイント悪化した。

規模別では「100人以上企業」で「減少」とみる企業が32.1%あり、3ヶ月後の受注予想D Iは前回調査時の7.1から△10.7と17.8ポイント悪化しており、業種別では自動車関連で35.3%の企業が「減少」としており同D Iは前回調査時の6.7から△11.8と18.5ポイント悪化しマイナスに転じた。

ヒアリング調査では、サブプライムローン問題から生じたアメリカ経済の減速や為替市場の変動、もう一段の資源高への警戒感などから、大手企業の動向も含め先行きに不安感を持っている中小企業が多い。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表-2

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	
製造業	150	9.3	59.3	31.3	-22	149	17.4	43.6	38.9	-21.5	150	13.3	63.3	23.3	-10	
規模	1~29人	74	10.8	52.7	36.5	-25.7	73	19.2	42.5	38.4	-19.2	74	13.5	58.1	28.4	-14.9
	30~99人	48	10.4	58.3	31.3	-20.8	48	14.6	39.6	45.8	-31.3	48	12.5	66.7	20.8	-8.3
	100~人	28	3.6	78.6	17.9	-14.3	28	17.9	53.6	28.6	-10.7	28	14.3	71.4	14.3	0
中分類	金属製品製造業	20	10	70	20	-10	20	15	40	45	-30	20	5	75	20	-15
	一般機械器具製造業	41	17.1	46.3	36.6	-19.5	40	25	37.5	37.5	-12.5	41	14.6	63.4	22	-7.3
	電気機械器具製造業	28	3.6	64.3	32.1	-28.6	28	10.7	42.9	46.4	-35.7	28	10.7	64.3	25	-14.3
	輸送用機械器具製造業	17	0	58.8	41.2	-41.2	17	23.5	47.1	29.4	-5.9	17	17.6	58.8	23.5	-5.9
	精密機械器具製造業	15	0	73.3	26.7	-26.7	15	13.3	73.3	13.3	0	15	6.7	66.7	26.7	-20

①諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

●金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

業況判断D Iは△10.0で前回調査時の△44.4からは回復しているものの、前回調査時から「横這」とする企業が70.0%を占めていることから弱含みの状況が続いている。

●一般機械（工作機械、専用機械、省力機械、検査機械、半導体関連製造設備など）

業況判断D Iは $\Delta 19.5$ と前回調査時の $\Delta 2.3$ から 17.2 ポイント悪化した。前回調査時には「横這」が 70.5% 、「悪化」が 15.9% だった割合が、今回調査では「横這」が 46.3% 、「悪化」が 36.6% と「悪化」とする企業の割合が増加した。

●電気機械（家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど）

業況が「悪化」した企業が 32.1% で、業況判断D Iは $\Delta 28.6$ となっている。前年同期比の業況判断D Iは 46.4% の企業で「悪化」したとしており足元の業況は幾分弱含んでいるものの、3ヶ月後の業況予想D Iは 10 ポイント近く回復している。

●輸送用機械（自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など）

業況判断D Iは前回調査時の $\Delta 6.7$ から 34.5 ポイント悪化し $\Delta 41.2$ と大幅に悪化した。また、3ヶ月後の予想では 23.5% の企業が「悪化」するとしており、前回調査時の同D I 13.3 から 19.2 ポイント悪化し $\Delta 5.9$ とマイナスに転じた。自動車関連では堅調な生産を続ける企業がある一方で、北米市場の低迷などから受注が弱含んでいる企業もみられる。

●精密機械（時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など）

業況判断D Iは $\Delta 26.7$ であるが、「横這」とする企業が 73.3% あり高水準の生産を続けている企業も多い。「3ヶ月後」については、「悪化」とする企業が 26.7% と前回調査時より 11.3 ポイント増加し、同D Iは $\Delta 20.0$ と主要5業種の中では最も慎重な見方をしている。

②他の製造業

業種により業況は区々となっているが、食料品製造業・プラスチック工業で業況が回復した企業が見られ、非鉄金属製造業で業況が悪化したとする企業の割合が高い。

③規模別業況

製造業の規模別の業況判断D Iは「1人～29人企業」 $\Delta 25.7$ 、「30人～99人企業」 $\Delta 20.8$ 、「100人以上企業」 $\Delta 14.3$ で全ての規模で業況判断D Iはマイナスとなっており、規模による景況感の差はみられない。

前年同期比では、「30人～99人企業」で 45.8% の企業が「悪化」したとして、前年同期比の業況判断D Iは $\Delta 31.3$ と他の規模よりもマイナスが大きくなっている。

「3ヶ月後」の業況予想では、「悪化」とみる企業は「1人～29人企業」で 28.4% となっており、業況予想は規模の小さな企業ほど厳しい予想をしている。

④受注状況D I（規模別、業種別）

製造業全社の受注状況D Iは「3ヶ月前比」 $\Delta 25.5$ 、「前年同月比」 $\Delta 20.3$ となっており受注が減少した企業が増えている。「3ヶ月後」の予想では「増加」とみる企業が 15.3% みられるものの、「減少」とみる企業が 31.3% で受注予想D Iは $\Delta 16.0$ と今後の受注環境を厳しくみている。

規模別の受注状況は、いずれの規模も受注状況D Iはマイナスとなっている。なかでも「1人～29

人企業」で受注が減少した企業が43.2%、「30人～99人企業」で受注が減少した企業が41.7%みられる。3ヶ月後の予想では「100人以上企業」で32.1%が「減少」を予想しており、前回調査時の同DI7.1から17.8ポイント悪化し△10.7とマイナスに転じた。

業種別では、「3ヶ月前」と比べて受注状況DIは、輸送用機械が「悪化」企業41.2%で同DI△35.3、一般機械が「悪化」企業43.9%で同DI△24.4とマイナス幅が拡大した。一方で、金属製品は「不変」とする企業割合が高まっており、同DIは△10.5となっている。

業種別・規模別受注状況表

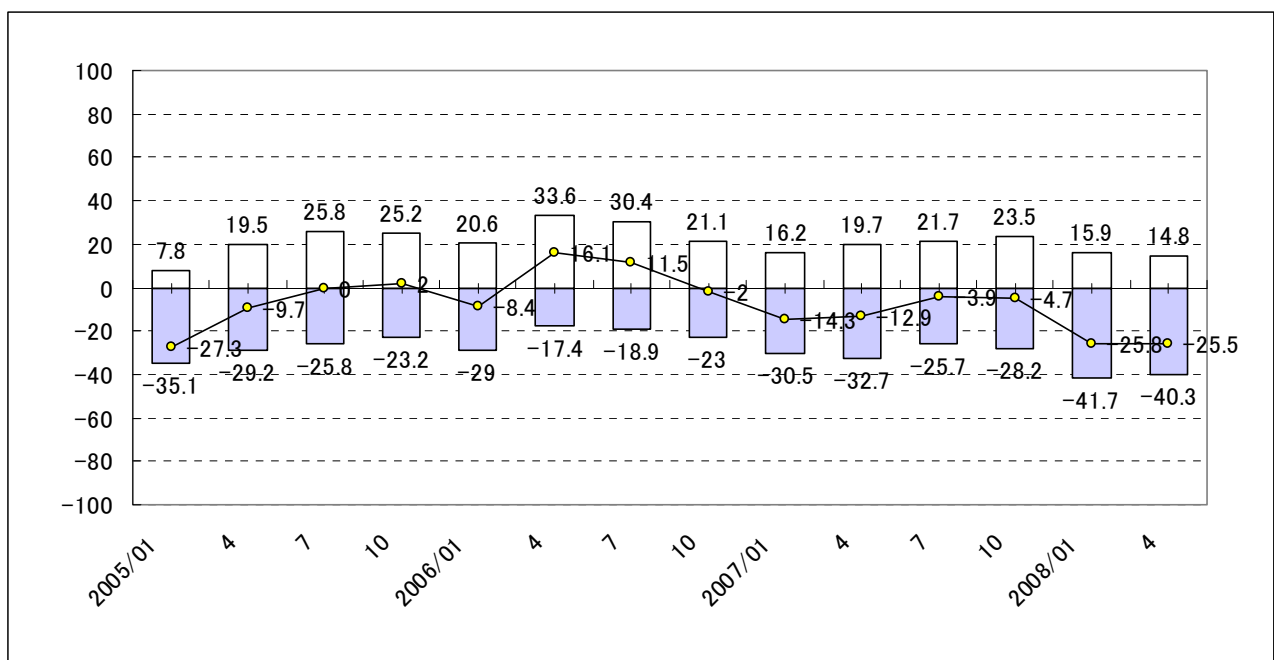
表-3

		3ヶ月前と比べて				前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
		回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI
製造業		149	14.8	45	40.3	-25.5	148	20.3	39.2	40.5	-20.3	150	15.3	53.3	31.3	-16
規模	1～29人	74	14.9	41.9	43.2	-28.4	73	17.8	39.7	42.5	-24.7	74	14.9	52.7	32.4	-17.6
	30～99人	48	12.5	45.8	41.7	-29.2	48	20.8	35.4	43.8	-22.9	48	12.5	58.3	29.2	-16.7
	100～人	27	18.5	51.9	29.6	-11.1	27	25.9	44.4	29.6	-3.7	28	21.4	46.4	32.1	-10.7
分類	金属製品製造業	19	15.8	57.9	26.3	-10.5	20	20	35	45	-25	20	20	50	30	-10
	一般機械器具製造業	41	19.5	36.6	43.9	-24.4	40	30	35	35	-5	41	9.8	65.9	24.4	-14.6
	電気機械器具製造業	28	14.3	46.4	39.3	-25	28	14.3	39.3	46.4	-32.1	28	14.3	46.4	39.3	-25
	輸送用機械器具製造業	17	5.9	52.9	41.2	-35.3	16	25	43.8	31.3	-6.3	17	23.5	41.2	35.3	-11.8
	精密機械器具製造業	15	13.3	40	46.7	-33.3	15	13.3	66.7	20	-6.7	15	13.3	53.3	33.3	-20

製造業の受注状況DIの推移

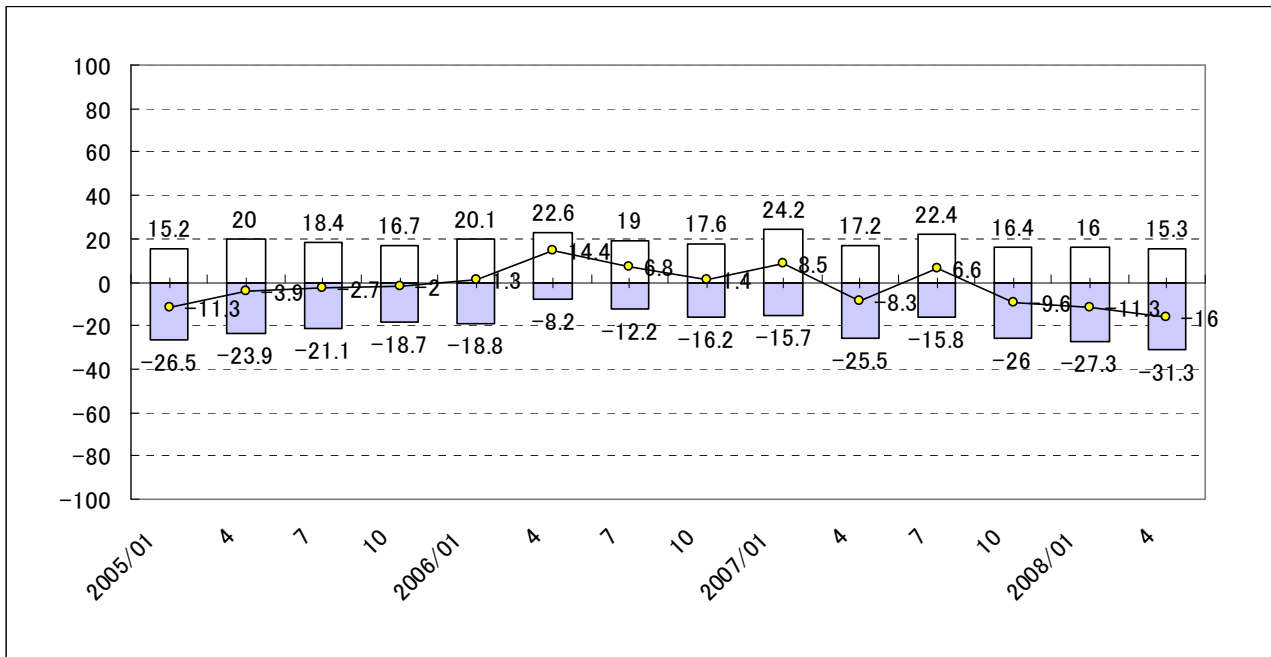
● 全社：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-4



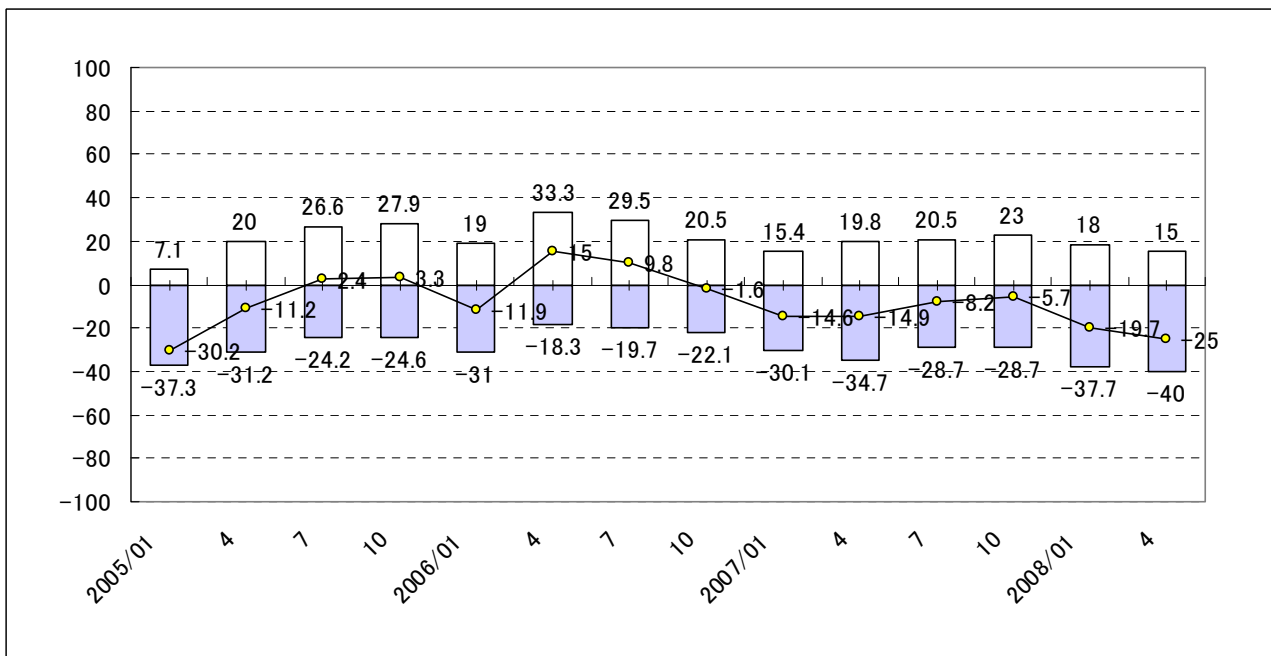
●全社：「3ヶ月後」の予想

グラフー5



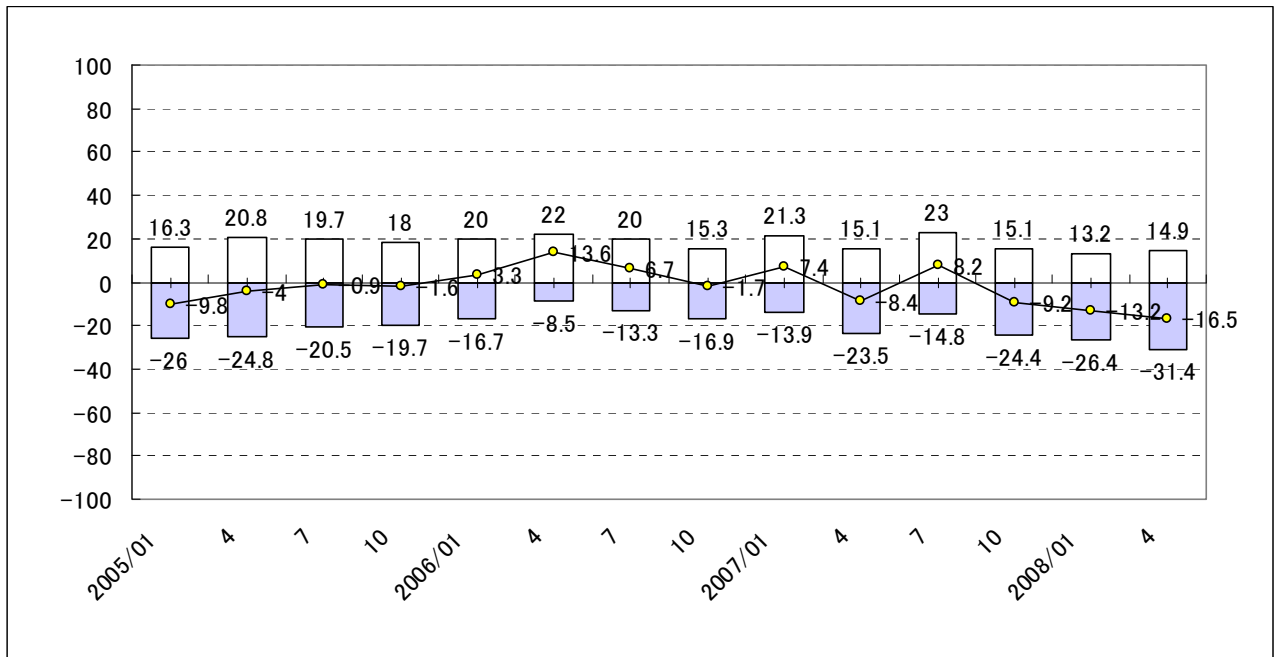
●主要5業種：「3ヶ月前」と比べて

グラフー6



●主要5業種：「3ヶ月後」の受注予想DIの推移

グラフー7



2. 商業・観光サービス業

①商業

諏訪地方の4月の天候は数日の周期で変化し、雨や寒気の流入により肌寒い日もあったものの、高気圧に覆われ気温の高い日が多かった。ガソリン税の暫定税率失効によりガソリン価格は下がったものの、食料品価格の上昇などから消費者の節約意識が窺われ前年同期と比べた客単価DIは△40.0、また3ヶ月後の予想客単価DIも△26.7と低調になっている。

諏訪地方の4月の車庫証明件数（軽自動車除く）は1,083台と前年比92台（+9.3%）増加しており、暫定税率引き上げ前の駆け込み需要がみられた。

- 食料品 穀物価格の高騰による加工食品の値上げにより商品単価は上がっているが、購入点数が伸びないため売上高は平年並みのところが多い。また、卸売価格の上昇分を全て商品価格に転嫁できていないことや、チラシ等による特売品の売上げは良いが一般商品の動きが弱いことから収益性は低下している。
- 衣料品 物価上昇による消費者の節約意識からファッション衣料の動きは幾分鈍いものの、実用衣料は比較的堅調である。
- ホームセンター 食の安全問題や野菜価格の上昇から、家庭菜園やプランター栽培用の野菜苗が例年以上の売れ行きとなっている。
- 大型家電店 引き続き薄型TVの動きは堅調であり、規格がブルーレイに統一されたことから次世代DVDも売れ行きを伸ばし始めた。

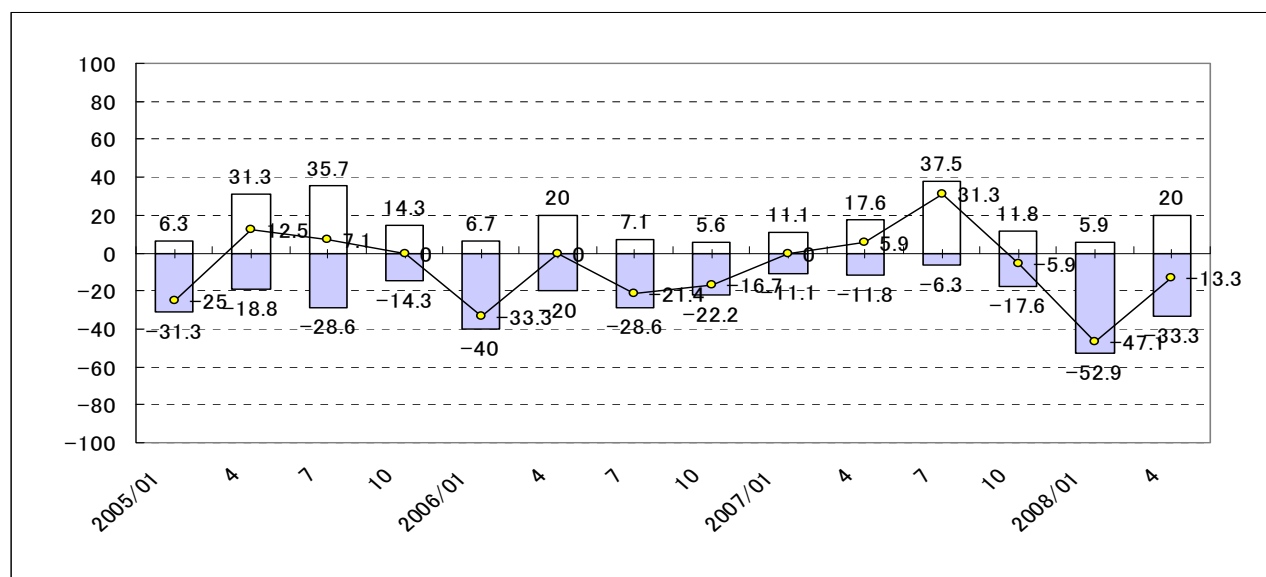
業況、客単価、来店客数

表-4

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	15	20	46.7	33.3	-13.3	14	28.6	35.7	35.7	-7.1	15	13.3	73.3	13.3	0
客単価	15	6.7	73.3	20	-13.3	15	6.7	46.7	46.7	-40	15	6.7	60	33.3	-26.7
来店客数	15	20	60	20	0	15	20	53.3	26.7	-6.7	15	13.3	66.7	20	-6.7

●商業全社の業況判断DIの推移：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-8



②観光・サービス業

今年のゴールデンウィークは、曜日配列の関係から4月中に連休がなく、5月に入ってから4連休に旅行需要が集中した。

諏訪地方の観光施設・ホテル旅館も5月3・4日は入り込み客で賑わい、満館となるホテル旅館がみられたものの、ゴールデンウィークを通した売上高は前年を下回った模様である。

前年同期と比べた宿泊客数は43.5%のホテル旅館で「悪化」したとしており、前年同期比の宿泊客数DIは△30.4となっている。また、夏の観光シーズンに向け例年4月の調査では高目の比率となる3ヶ月後の宿泊客数予想DIが0.0となっており(2007.04 同DI 65.0、2006.04 同DI 22.2、2005.04 同DI 63.2)、NHK大河ドラマ「風林火山」の好影響のあった昨年に比べ先行きに慎重な見方となっている。

上諏訪温泉、下諏訪温泉の4月の宿泊客数は、特別企画で宿泊客数を伸ばしたところもあるが、総じては前年同期を幾分下回った模様である。白樺湖・蓼科・霧ヶ峰方面の4月の宿泊客数もゴールデンウィーク前半が連休とならなかったことから、前年を幾分下回った模様である。

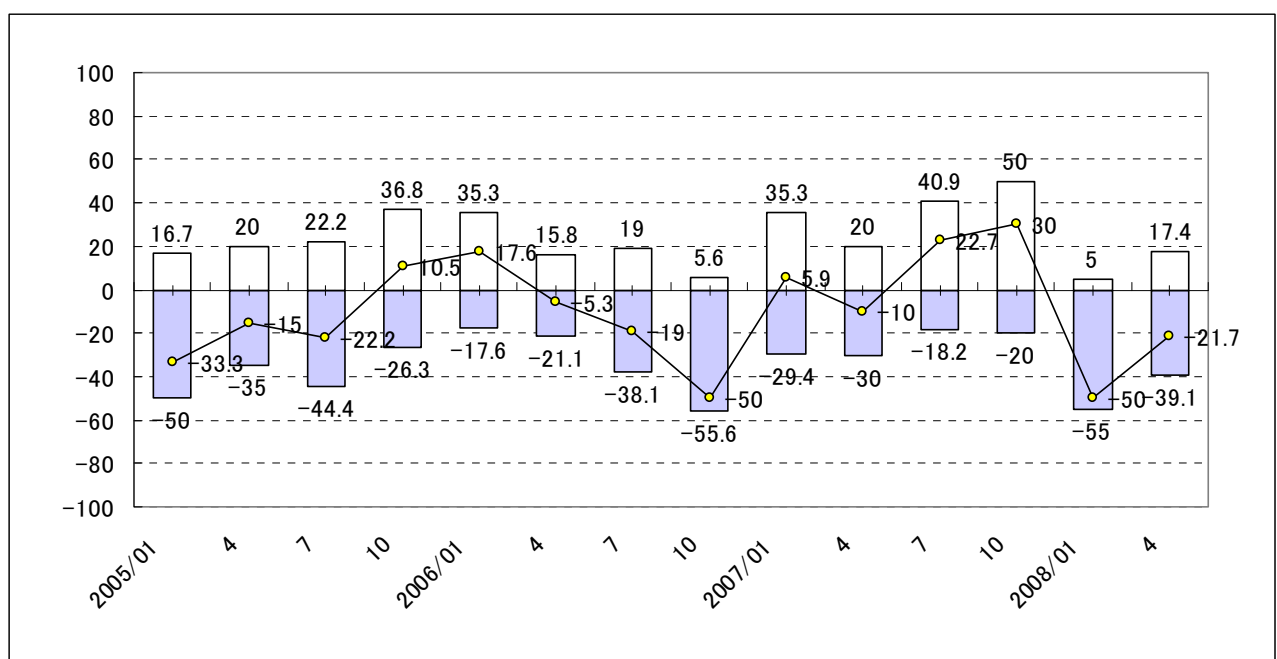
業況、売上、宿泊客

表-5

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	23	17.4	56.5	26.1	-8.7	23	17.4	43.5	39.1	-21.7	23	30.4	47.8	21.7	8.7
客単価	23	13	60.9	26.1	-13	23	17.4	60.9	21.7	-4.3	23	17.4	73.9	8.7	8.7
宿泊客数	23	30.4	34.8	34.8	-4.3	23	13	43.5	43.5	-30.4	23	26.1	47.8	26.1	0

●観光・サービス業全社の業況判断DIの推移：「前年同期」と比べて

グラフ-9



3. 建設業

3ヶ月前と比べた業況判断D Iは△21.4 と前回調査時から横這いの状況である。また、調査企業の50%で前年同期と比べ外注発注量を減らしたとして、同D Iは△35.7となっている。

3ヶ月後の予想では、業況・受注状況・外注発注量ともに「横這」とする企業が多いものの「悪化」とする企業も多く、調査項目全てのD Iでマイナスとなっており厳しい見方となっている。

①建築工事

諏訪地方の平成20年3月の新設住宅着工件数は71戸で、昨年同月の149戸から△78戸(△52.3%)減少した。また、平成19年4月～平成20年3月の累計着工戸数も1,521戸とマンション建設が相次いだ昨年の1,942戸に比べ△421戸(△21.6%)減少した。

住宅取得希望者が、製造業の残業の減少に伴う年収の低下や米国のサブプライムローン問題の報道などから幾分慎重な姿勢となっており、一部では住宅用土地の引き合いが鈍っているとの声がきかれる。

②土木工事

本調査時は公官庁の年度切り替え時期のため公共工事の発注は少なくなっている。また、今年度に発注となる公共工事は前年比では減少が予想される。

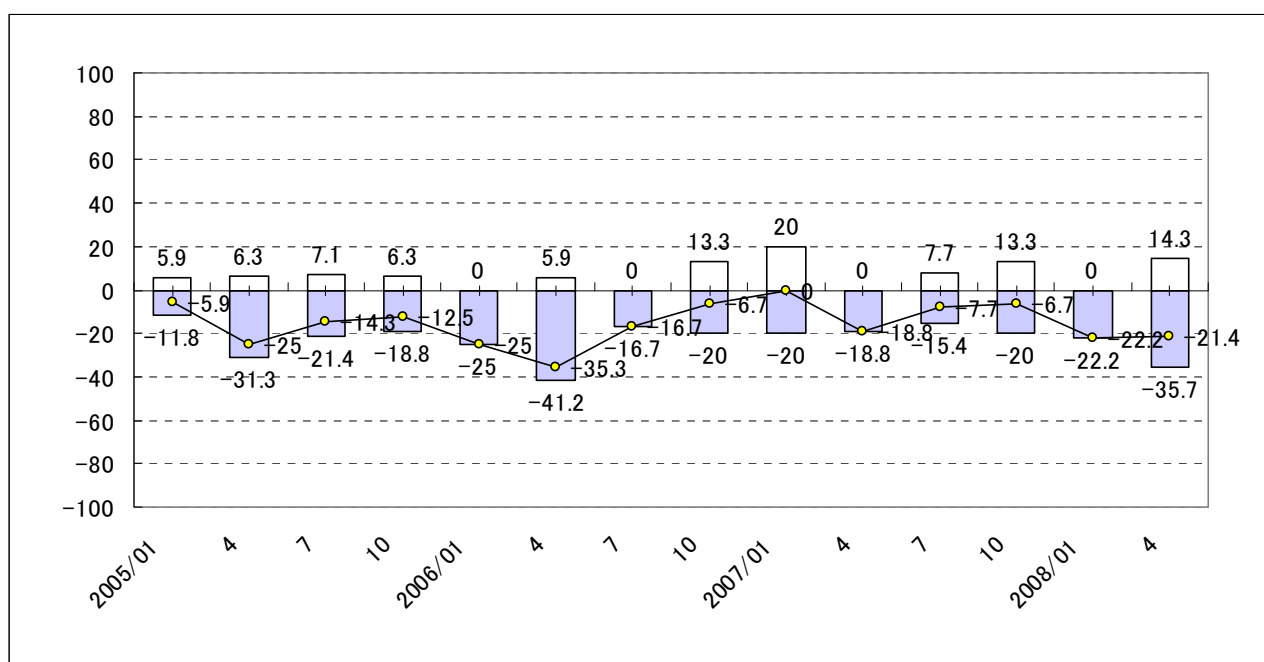
業況、受注状況、外注発注量

表-6

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	14	14.3	50	35.7	-21.4	14	7.1	57.1	35.7	-28.6	14	0	57.1	42.9	-42.9
受注状況	14	21.4	28.6	50	-28.6	14	14.3	42.9	42.9	-28.6	14	7.1	57.1	35.7	-28.6
外注発注量	14	14.3	42.9	42.9	-28.6	14	14.3	35.7	50	-35.7	14	0	64.3	35.7	-35.7

●建設業全社の業況判断D Iの推移：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-10



4. 収益性状況

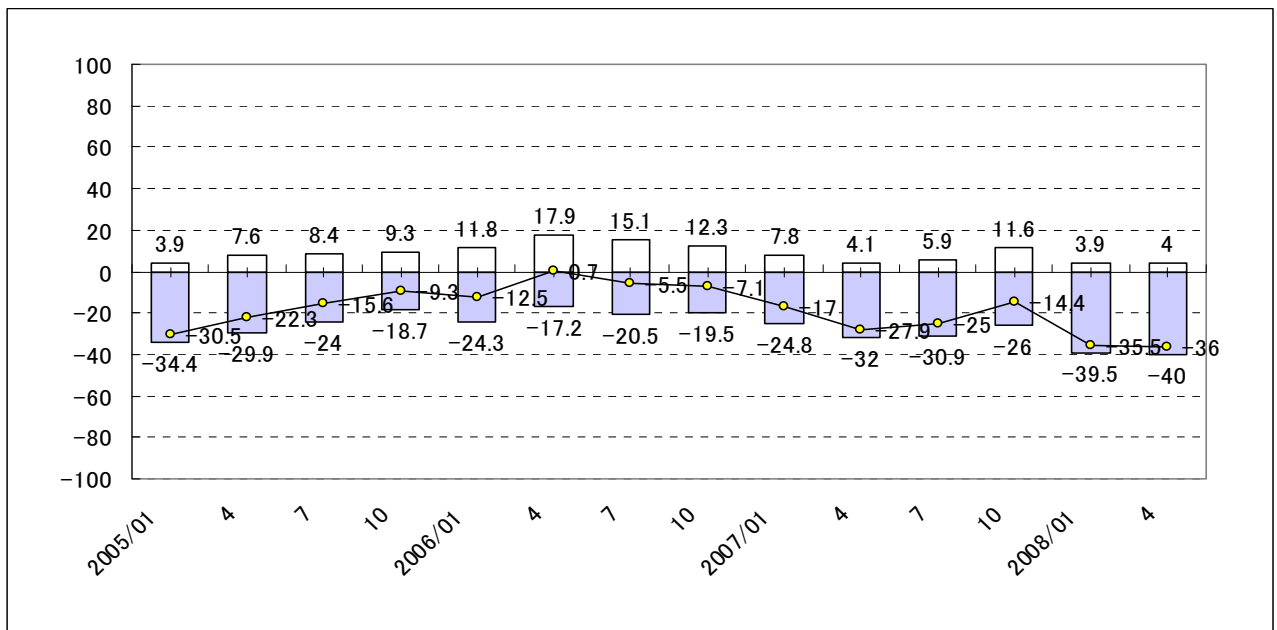
回答全社の「3ヶ月前」と比べた収益性D Iは△34.7となっている。

製造業は、受注の減少と材料費や原油高騰の影響から「3ヶ月前」と比べ収益性が「悪化」した企業が40.0%で同D Iは△36.0、「前年同期」と比べ収益性が「悪化」した企業は49.0%で同D Iは△38.9となっている。

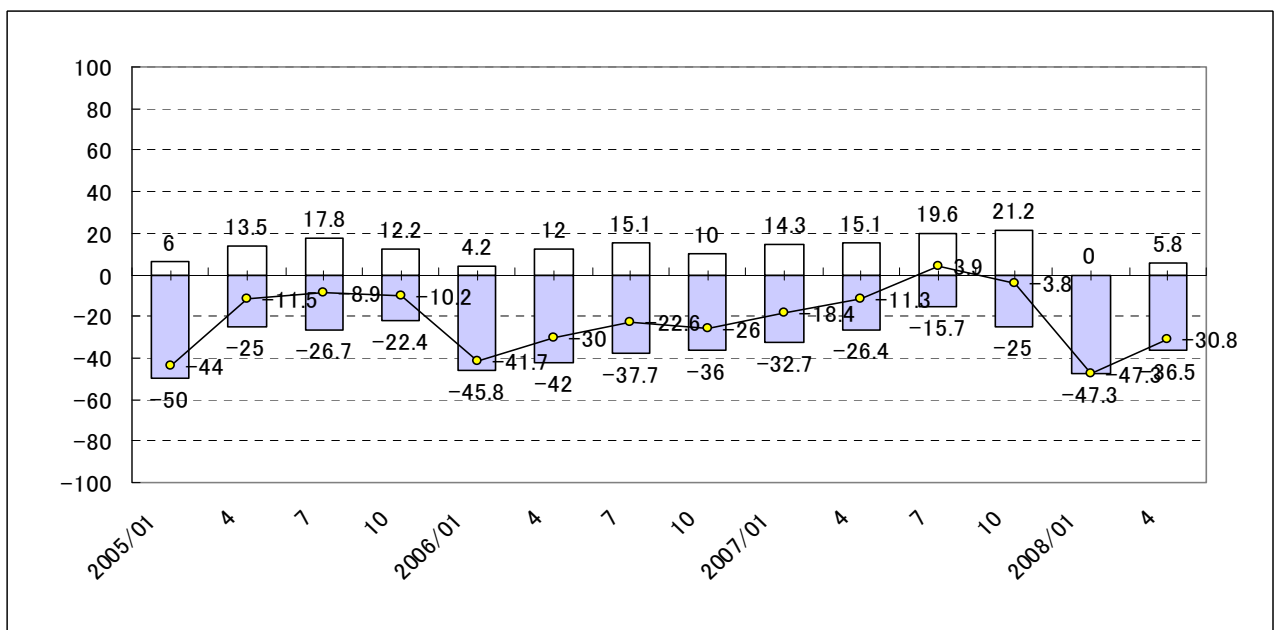
非製造業の収益性D Iは、行楽シーズンを迎え観光・サービス業の同D Iが大きく回復したことから前回調査より16.5ポイント回復し△30.8となった。一方、建設業は受注減少、受注単価の下落もあり57.1%の企業で収益性は悪化したとしている。

●製造業の収益性D I：3ヶ月前と比べて

グラフー11



●非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の収益性D I：3ヶ月前と比べて グラフー12



5. 経営上の課題

経営上の課題として、①製造業は売上減少、競争激化、単価引下げをあげる企業が多く、②商業は売上減少、競争激化、人件費、③建設業は競争激化、売上減少、単価引下げ、④観光・サービス業は売上減少、資金繰り、人件費をあげている。

経営上の課題	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	108	77	7	9	15
単価引下げ	58	44	1	7	6
競争激化	68	46	7	10	5
資金繰り	39	26	1	3	9
人件費	31	15	7	1	8
労働力確保	29	18	3	1	7

6. 諏訪地方主要経済指標

主要指標		実数	前年同期比
有効求人倍率 【3月】	諏訪公共職業安定所管内	1.22倍	△0.04ポイント
	岡谷公共職業安定所管内	1.42倍	△0.25ポイント
手形交換高【4月】 (諏訪手形交換所扱)	枚数	10,704枚	△913枚
	金額	15,821百万円	△1,002百万円
うち不渡り 発生状況	枚数	0枚	0枚
	金額	0千円	0千円
車庫証明取扱件数【4月】 (諏訪・岡谷自家用自動車協会管内)		1,083件	+9.3%
新設住宅着工件数(H19.4~H20.3) (諏訪地方事務所管内)		1,521件	△21.6%

7. 調査概要

DI調査：業況が「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値

- 調査期間 平成20年4月末
- 調査内容 「平成20年4月末」の実績と、「3ヶ月前」と「前年同期」の業績比較及び「3ヶ月後」の予想
- 調査方法 アンケート調査及びヒアリング調査
- 対象地域 諏訪地域全域
- 業種 製造業、商業（大型店：売り場面積501㎡以上）、建設業、観光・サービス業
- 回答企業数 202企業
- 回答率 67.3%

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業他	合計
依頼数	225	30	22	23	300
回答数	150	15	14	23	202